

平成29年2月定例会 一般質問（概要）

平成29年3月7日（火）

質問者：久谷 眞敬 議員



<久谷議員>

大阪維新の会大阪府議会議員団久谷眞敬でございます。

早速、質問に入らせていただきます。

1 保育所の開園について

ニッポン一億総活躍プランにおいても子育て環境の整備として、保育の受け皿整備が求められており、安心して子どもを預けて働くことができるような環境整備が重要であると考えております。しかしながら、現状は、増え続ける保育ニーズに整備が追い付かず、待機児童が発生しております。

待機児童の解消については、各市町村が保育所等の整備に取り組んでおりますけれども、新たな設置については、土地の確保が困難であったり地域の理解を得られにくく、また、

待機児童が0歳児から2歳児に集中していることなど課題も多いと聞いております。

大阪市をはじめ、各市町村の来年度予算においては、待機児童解消に積極的に取り組む市町村が多くあります。このような状況の中、待機児童解消に向けて保育所等の整備に積極的に取り組む市町村に対し、府はどのように財源を確保して支援していくのか。福祉部長にお伺いをいたします。

<福祉部長答弁>

昨年10月1日現在の大阪府内の待機児童数は、3,126人となっており、保育を必要とされている方々のニーズに応えきれていないという厳しい状況が続いております。

府としては、市町村が取り組む保育所や認定こども園、また、待機児童の約9割を占める0から2歳児を主な対象とした小規模保育事業などの整備について、「安心こども基金」を活用し、保育の受け皿拡大を支援しています。

市町村からの支援要請に確実に対応するため、「安心こども基金」について国から財源を確保し、平成29年度の整備予算として、約143億円を計上しており、218箇所約8,000人分の保育量の拡大を予定しております。

<久谷議員>

保育所等の整備に対して、財政的な支援を行う一方で、地域の理解を得られにくいといった課題への対応についても、大阪府の知識や経験を生かして支援すべきと考えております。

他府県では、保育所等の子どもの声や送迎に関する苦情により施設整備が中止に追い込まれた例もあり、今後は、大阪府においても、近隣住民の反対により保育所が開設できないといったことが起こるかもしれないと懸念をしております。

このような中、環境農林水産部では、保育所等を対象に、音や送迎時の交通など幅広い苦情やトラブルを未然防止するための「子ども施設環境配慮手引書」を作成し、府内の約2,300の施設に配布をしました。全国的にも珍しい取組みとして、新聞やテレビなどマスコミにも注目され、多数取り上げられるとともに、先日のシンポジウムも盛況であったと聞いております。

子どもたちは、将来の社会を支えることから、地域全体で子育てを応援していかないとはいけません。今回、府が作成した手引書は、保育所等の新增設にも役立つものであることから、しっかりと普及していくべきと考えておりますけれども、環境農林水産部長にお伺

いたします。

<環境農林水産部長答弁>

環境問題は時代とともに変わってきており、高齢化や働き方が多様化したことで、日中に家にいる人が増えるなど、社会構造の変化に伴い、子ども施設でも音に関する苦情が発生するなどの事例がみられるようになっております。

今般、作成しました子ども施設環境配慮手引書では、市町村をはじめ、保育所等に詳しい建築事務所へのヒアリング等を踏まえた対策事例の紹介の他、苦情の未然防止に不可欠なコミュニケーションのポイントや、トラブル対応に専門家の力を活用することなどを記載しております。

この手引書を実際に活用していただくことが重要であるため、2月には、子ども施設関係者等を対象としたシンポジウムを開催し、手引書の内容を周知するとともに、有識者、関係団体、建築事務所から、地域とコミュニケーションを取って適切に対応した身近な事例を紹介いただいたところです。

今後とも、この手引書が、施設と地域との共生の一助となるよう、市町村の研修会や関係団体の講演会などで説明を行うなど、積極的に普及啓発に努めてまいります。

<久谷議員>

子どもは日本の宝であります。子どもを育てる環境を積極的に整備することが、大阪の魅力創出にも大きく寄与するところであります。

そのためには、子育てをしている当事者はもとより、地域全体で支え合っていくことが求められます。

府としても、そのコーディネート役として支援していただきますよう要望いたします。

2 能勢高校の改編に向けた取組みについて

次に能勢高校の改編に向けた取組みについてお伺いをいたします。

府教育委員会は能勢高校を平成30年度より豊中高校の分校に改編することを決定いたしました。

能勢町に居住する生徒が能勢町外の高校に通うためには長時間の通学時間を要するという地域的特性があり、また、能勢町内の中学校卒業生数が今後も減少していく見通しの中で、大変難しい判断であったと思います。

分校への改編を機に学校の魅力を高め、能勢町内・町外から、この学校で学びたいと考

える生徒に志願してもらって、地域における高校の教育活動を活力ある形で継続していくと聞いておりますが、10年連続で志願者数が定員を満たしていない学校の改革がうまく進むのか、今年度の出願状況をみても不安は大きいと感じております。

町内外の多くの生徒が魅力を感じて「入学したい」と思うような学校づくりについて、教育長のご所見をお伺いいたします。

<教育長答弁>

能勢高校の再編整備については、平成27年12月に能勢町教育委員会と共同で設置したプロジェクトチーム会議で15回にわたって検討し、豊中高校の分校として運営していくことが最も望ましいと判断致しました。

改編後の高校では、保護者ニーズの把握のためのアンケート調査の結果を踏まえ、能勢分校ならではの少人数のコースを設置し、大学進学に対応できる学力を育成するとともに、英語で議論して課題解決の方法を提案するなど英語の4技能と国際的素養を伸ばす教育を行いたいと考えております。また、地域の方々から農業に関する技能について直接指導を受け実践力を高めるなど、地域と連携した教育の充実を図ってまいります。

この改編によって、本校である豊中高校と能勢分校の両校にプラスの効果がもたらされることをめざしていきます。

まず、分校の生徒にとっては、本校の進学指導のノウハウ、教材、土曜講習等への参加機会が学力向上につながるとともに、スーパーイングリッシュティーチャーが配置されている本校の高度な英語の指導のノウハウが分校でも活かされることで、英語教育の充実が期待できるところでございます。

また、本校生徒にとっても能勢分校の農場を活用して両校の生徒がともに課題研究に取り組むことや、生徒会同士の交流、分校施設を活用したクラブ活動の合宿での交流など新たな取り組みを行ってまいります。

来年度には両校をIT技術を活用した「ネット教室」で結んで、どのような利用方法が有効であるか、実証実験を行うこととしております。

本校と分校間のこうした教育活動の交流・連携の方法や効果、これを積極的に発信し、町内外からの志願者増加につなげてまいります。

<久谷議員>

まずは、町内からの出願者を増やす事が大切、そもそもは町内の特異性から生まれた学校再編と考えています。

町内から、能勢分校に進学したいと熱望する気運を高める事が町外へのアピールにも繋がります。

来年度の受験者は今春から志望校の選定が始まると聞いています。

早期に学校概況をまとめ、選択肢が広がる努力をされる事をお願いします。

3 今後の大阪マラソンについて

次に、今後の大阪マラソンについてお聞きします。

大阪マラソンは、大阪の都市魅力を発信する新しい「お祭り」として、2011年にスタートし、今年で7回目を迎えます。

昨年の大会では、海外ランナーの申込みが初めて1万人を超え、約4千人の海外ランナーが出走されました。また、沿道での応援も過去最高の約133万人を記録するなど、回を重ねるごとに、国内有数のマラソン大会として定着してきています。

一方、コースについては、大阪城公園前をスタートし、インテックス大阪前をフィニッシュとするといった第1回大会のままで変更されておりません。私は、開催当初から「大阪駅周辺を走りたい」というランナーの声をいろんなところで聞いており、コース変更がされていない点については残念に思っています。

大阪マラソンと規模を同じくする東京マラソンを見ると、第11回目を迎えて今回、東京駅前をゴールとするコースに変更しました。

私は、大阪マラソンの今後を考えたときに、国内最大級の市民マラソンとして、更なる進化・発展を成し遂げるためには、インバウンド効果を今以上に生み出す工夫が必要と考えています。そうすることで、海外も含めた観客が増え、より一層、応援している人とランナーとが一体となったイベントになるからです。そのためには、今よりも多くの大阪の名所を走るコースへと変更を行うことが必要ではないかと思いますが、府民文化部長のご所見は如何ですか。

<府民文化部長答弁>

大阪マラソンをより魅力的な大会とするため、ランナーの通過予測時間がわかるサービスの提供や沿道でパフォーマンスを繰り広げる「ランナー盛り上げ隊」の設置など、これまでもランナーと観客が一体となる様々な取り組みを行なってきました。

コース変更については、大阪マラソンの更なる魅力向上を図る具体的な方策の一つとして、重要なことだと認識しています。

先月行なわれました「第20回大阪マラソン組織委員会」においても、都心部をゴールとするセントラルフィニッシュなど、より魅力あるコース変更への検討を進めていくことが確認されました。

ただ、コース変更を検討するにあたっては、3万2千人のランナーが集合・解散できる場所の確保や交通規制に伴う経済的損失や府民生活への影響など、様々な課題があることから、今後、東京マラソンの課題等を調査・分析しながら、検討を行って参りたいと考えています。

こうした取り組みを通じて、大阪マラソンを、ランナーを始め、観る人、支える人が一体となった日本を代表する国際的なスポーツイベントへと育て、大阪の都市魅力を世界に発信して参ります。

<久谷議員>



先週開催された東京マラソンをテレビ観戦した。ランナー達が東京駅をバックにゴールしていくシーンは素晴らしく絵になっていた。あの光景を見て感動を覚えた方々が「私も東京マラソン、走ってみたい、応援に行きたい」となり、応募者や観客の増加につながっていくのだらうと思います。

そういう観点から大阪マラソンを振り返ると、現在のコースには、キタ・ミナミといわれる大阪を代表する地域のうち、キタが入っていない。このことは、大阪の都市魅力発信という点において検討の余地があると思っています。

キタには大阪を代表するターミナル、大阪の玄関口である大阪駅があり、大阪駅周辺には、「全面みどり化」をめざす「うめきた2期」があります。

このエリアの整備は、まだ始まったところであり、大阪マラソンのコースとなり得るよう織り込んでいくことは、タイミング的にも合うのではないですか。

以上のことから、大阪マラソンの今後のコース変更検討の際には、ぜひ大阪駅周辺を新コースに加え、東京マラソンに勝る魅力あふれるマラソンになることを強く期待しております。

4 万博成功に向けた戦略的な取組みについて

今定例会における我が会派の代表質問において、鈴木幹事長から、「万博の開催により大阪をどのような都市に変えていこうとしているのか。また、そのために2025年に向け府はどのような取組みを進めていこうとしているのか」との問いに対して、知事から「国・経済界・自治体・住民のみなさんとともに持てる力を結集して、万博に向けた取組みを推進することにより、誰もが健康で生き活きと活躍できる未来社会を実現できるよう全力を尽くしていく」との答弁があった。私も同感である。この知事の思いを実現するために、何としても万博誘致を実現し、万博を成功させなければならないと改めて決意いたしました。

万博を成功させるためには、私は、大阪を訪れる人々が必ず、「2025年万博にいきたくなる」ようなしなかけづくりが重要と考えています。そうした取組みを、官民が一体となって知恵を絞り、今から取り組んでいくことが、大阪のまち全体での盛り上げにもつながっていくのではないですか。

例えば、万博の2年前にまち開きが予定されているうめきた2期エリアで、万博の魅力を発信する関連ブースを計画するなど、戦略的に人が集まる場所で情報発信していくようなしなかけを官民の力を結集して検討すべきと考えますが、知事のご所見は如何ですか。

<知事答弁>

大阪・関西を訪れる人々が必ず「2025年万博にいきたくなる」ような仕掛けづくりが必要という思いは、議員と同じであり、国内の機運醸成のために重要な視点であると考えています。

今月にも設立を予定している誘致委員会では、参画いただく企業、団体、自治体などが知恵や工夫を凝らし、それぞれのリソース等を活用した活動を進めることとしています。

ご提案のうめきた2期は、「ライフデザイン・イノベーション」を掲げるなど、万博がめざす理念ともつながっている。こうした大阪・関西の様々なエリアで戦略的に情報発信する仕組みづくりについて、誘致委員会において検討を進めていきます。

<久谷議員>

私の地元である北区のうめきたでは、2023年春に予定されている2期の一部まちびらきに向け、取組みが進められている。うめきた2期では、新たな国際競争力を獲得し、世界をリードする「みどり」と「イノベーション」の融合拠点をめざしている。また、当該地区はライフサイエンス分野で強みを有する京都・神戸へのアクセスも便利な場所で、万博にかかる情報発信を行うのに最適な地であり、利用しない手はない。こうした絶好の機会を活用し、万博開催を見据えた取組みがなされるよう、要望しておく。

5 大阪で開催される祭りへのインバウンド誘致について

私の地元では、毎年7月、日本三大祭の一つである「天神祭」が開催され、多くの人で賑わっています。

世界の祭りの中には、1億人の人が訪れるインドの「マハ・クンブメーラ」という祭りもあります。

日本のまつりでいえば、青森ねぶた祭りには276万人の人が訪れており、



札幌雪まつりには、260万人の人が訪れています。



一方、大阪府に目を向ければ、岸和田だんじり祭りには50万人が勇壮なやり回しによいしれ、



私の地元で行われる天神祭には130万人もの人が花火や陸渡御、船渡御の賑わいを体感しに訪れております。



こうした祭りは、1年を通じて見ると大阪では数多く開催されている。私は祭というのは、千年、数百年もの長い時間をかけて磨き上げられてきた、非常に魅力の高いイベントだと思っております。また、日本の祭は、外国人観光客にとって、非常に神秘的に見えるとも聞いています。こうした祭りに観光客、特にインバウンドを呼び込むために、どのような取り組みを行っているのか、府民文化部長にお伺いいたします。

<府民文化部長答弁>

日本の祭りは、伝統・文化を地域の誇りとして大切に守り、継承されてきた貴重な資産であるとともに、外国人をはじめとする観光客にとって、非常に魅力的な観光コンテンツとなっているものと認識しております。

大阪の各地で開催されている祭りについては、大阪ミュージアムや大阪観光局のホーム

ページなどを通じて、情報発信に取り組んでいるが、さらに、来年度、大阪観光局では、府内の伝統行事などに関するホームページの充実を図り、情報発信の強化に取り組むこととしています。

また、議員お示しの天神祭については、これまでも大阪観光局において、祭りの様子を間近でご覧いただける観覧席の設置など、外国人をはじめとする観光客に楽しんでいただくための取組みを行うとともに、日本語・英語・中国語・韓国語のパンフレット等を活用したPRを行っているところです。

府としては、引き続き、大阪観光局とともに、大阪の観光魅力である伝統行事や祭りに関する情報を発信し、内外からの観光集客の促進に取り組んでまいります。

<久谷議員>

様々なアイデアを駆使して祭りへの観光集客に取り組んでいただいているようですが、さらに多くの人を呼び込んで、祭りを盛り上げていくためにも、是非、一部のマニアのみならず、府民からの絶大なる人気を誇る、知事には大阪で開催される様々な祭りに積極的に参加し、直接肌で感じたことを広く情報発信していただきたいと思っておりますが、知事ご所見をお伺いします。

<知事答弁>

私が直接参加するというよりも、その祭りの良さを先ほど府民文化部長が答弁しましたけれども、祭りの良さとか歴史とか積み上げてきたものを如何に具体的に丁寧に世界に発信していくかということが一番大切なことだと思っております。

これは担当部局、府民文化部もそうですけれども、今、大阪観光局がですね様々なツールを通じて、大阪の様々な催し、その中にはもちろんお祭りが入っておりますけれども、その催しを世界に向けて発信する事業をこれからも拡充をしていきます。そういう形で、大阪の様々な催しを体験型によってインバウンドのお客様を増やしていきたいと思っております。

<久谷議員>



側面的にもご支援願いたいと思いますし、「松井知事おっただ」そういう「見た、見た」というのがですね多くなれば、SNSとかでも拡散していけるんじゃないかと思っております。そういった部分で隠れキャラではないですが、参画していただければ、本当に盛り上がると思いますので、よろしく願いしておきます。

一方、観光集客が進むことに伴い雑踏警備の問題が生じている。より多くの人が集まると安全確保のために警備を確保せねばならず、こうした方の人件費が主催者の財政を圧迫しているわけであります。天神祭ですら運営が厳しいとも聞いています。もちろん、収入の確保は主催者の工夫によるところが大きいことは理解しております。

ただ、賑わいづくりとしての誘客と人が集まった場所での安全確保を目的とした警備は、いわば表裏一体の関係であるので、片方だけを進めるだけでは十分ございません。祭りを伝統文化として守り、賑わいの一つとしてより盛り上げていくために、特に警備の問題に関しては、例えば、PRとともに主催者が募集するボランティア等への協力を呼びかけるなど、行政としても協力できる部分はあると思うので、応援をお願いしたいと思っております。

最後に本日さまざまな質問をさせていただきましたが、大阪を磨き、輝かせる事業をより発展させるためには、参加者のみならず、地元地域住民の協力を得ることが不可欠であります。間違っても、不信感を抱かすなどといったことがあってはなりません。地元との信頼あつての事業や計画であり、それが行政のあり方であります。そのことを十分ご留意くださいますように改めてお願いを申し上げまして、質問を終了させていただきます。

ご清聴ありがとうございました。